

◆ 2 年生進路ガイダンス ◆

7月7日(木曜日)、期末考査最終日、「2年生進路ガイダンス」を開催しました。

今年度は、広島大学より、総合科学部総合化学研究科

(認知言語学・意味論入門)

町田 章 准教授

工学部工学研究科

(化学工学・微粒子工学)

荻 崇 准教授

京都大学より、人間・環境学研究科(歴史地理学)

山村 亜希 准教授

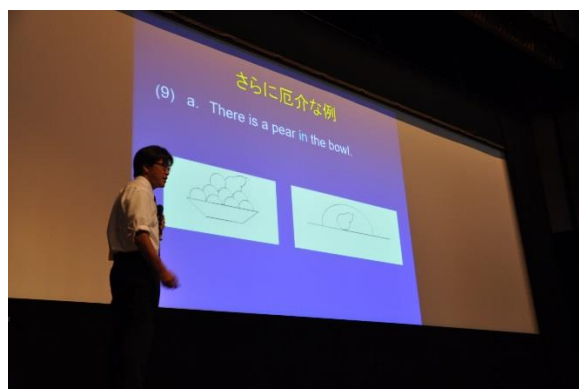
理学研究科

常見 俊直 講師

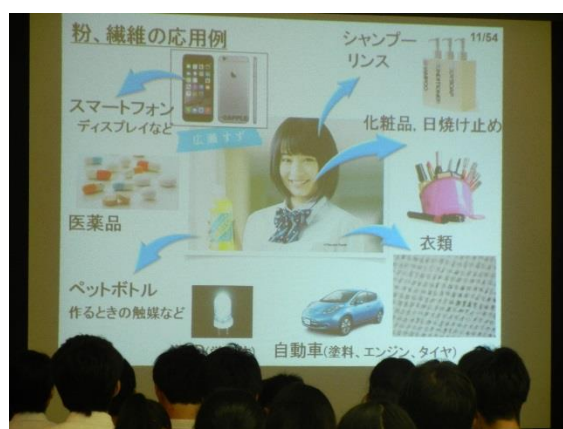
以上4名の先生方に講義をしていただきました。

生徒は、文型、理型に分かれ、それぞれで、お二人の先生方の講義を聴きました。

国立大学の講義の一端に触れ、自らの進路を考える上で貴重な時間となりました。



言葉は“1 + 1 = 2”ではない！ロボットには人間のような理解はなかなか出来ないのですね。



化学工学は私たちの生活と密接に関係した研究であることがよく分かりました。



広島が今の広島であるのは自然な成り行きではなかった！？地図を見ると見えてくるものがある。



物理を通してみると私たちが石と同じ原子から成っている。

【生徒の感想より】

～文型～

- ・ 認知言語学というものが何をする学問か少し分かった。
- ・ 図を利用するなど多くの例があって分かりやすかった。言語は無自覚に使われているため分からないことがイコール知らないということではでないという内容が印象深かった。
- ・ 言語を使ううえで機械は論理的だが、人間は人間くさい論理で使っているため、人間のように言語を理解できるロボットを作るとはとても難しいという話が興味深かった。
- ・ 普段何気なく使っている言語に興味を持つことでたくさんのが見えてくるのが面白かった。
- ・ 自分の身近な土地の歴史を知ることができてよかった。
- ・ 歴史と地理が融合されているようで面白かった。
- ・ 広島が今の状態になっていく経緯を地図から見事にたどっていくことができるのがすごいと思った。原爆投下後の広島が復興していく様をよく理解することができた。
- ・ 現代の山陽道は昔の広島城とその城下町の位置に関係しているという内容が印象に残った。昔のことが今現代につながっているのが面白かった。
- ・ 「月は永遠の落下をしている」、「デッド・レコニング」などの言葉に衝撃を受けた。
- ・ 普段何気なく見ている地図でも歴史を見ることができ、地図一つから、なぜ広島に原爆が落とされたてしまったのかが分かったような気がした。

～理型～

- ・化学工学は総合力が身につく学問だということが印象的だった。
- ・中空粒子ができる過程がよく分かった。
- ・粒子の立体図や動画があって分かりやすかった。粒子の映像が美しかった。
- ・粒子に穴を開けたり、空洞にして質量を軽くすることが分かった。
- ・日本は資源が少ないから工夫したり、資源や環境のことを考えて研究しているということが印象的だった。
- ・今の太陽は7代目か8代目だということに驚いた。
- ・原子と原子核の間の空間の広さに驚いた。
- ・人の体は酸素と炭素と水素で出来ていることを知って驚いた。人の体は意外と単純だと思った。
- ・原子核反応は化学反応の180万倍ものエネルギーを生み出すということが印象的だった。
- ・工学部、理学部の内容に興味を持った。
- ・高校で習う物理は1900年くらいまでの知識を扱っていて、2000年くらいまでの内容は大学で習うということが印象的だった。
- ・大学に進学して実験をするのが楽しみになった。

～全体的に～

- ・先生方がとても楽しそうにお話されていたので大学で学ぶって楽しそうだなと思った。
- ・1つの事をとことん追求すると、今まで不思議に思っていなかったものに気づいて解明できるのでとても楽しそうだなと思った。同時に大学での進路選択はとても重要であると改めて気づかされた。
- ・どちらの講演内容もとても興味深かった。ほかの学部・学科の先生方にもお話を聞きたいと思った。
- ・自分の志望大学の先生の研究内容を調べてみようと思った。
- ・大学に行く目的について考えることが出来てよかった。



暑い中でしたが、お話に引き込まれていました。